

修正版

# 松戸保健所管内感染症情報 第9号

「松戸保健所管内の感染症発生動向（直近5週）」内の「急性呼吸器感染症」のグラフに一部誤りがありましたので、再度配信いたします。

発行／松戸保健所（松戸健康福祉センター） 疾病対策課  
発行日：2026年3月19日

2026年第10週 2026.3/2～3/8  
2026年第11週 2026.3/9～3/15

## 保健所からのお知らせ

令和8年3月20日（金）が祝日のため、本日配信いたします。

令和7年（2025年）の松戸保健所管内の結核統計情報について添付しましたので、ご参照ください。

【全数把握対象疾患】 保健所管内で報告のあった疾患のみ掲載しています。全数報告集計表については、別添をご覧ください。

	(2026年第10週・第11週)		(2026年累計第1週～第11週)	
2類感染症	結核	4	19	
4類感染症	レジオネラ症	1	6	
5類感染症	アメーバ赤痢	1	4	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	4	
	梅毒	1	9	

## 【定点把握対象疾患】

上段：報告数 下段：定点当たり報告数（定点一か所から一週間にどの位の患者報告があったかの平均値） 前週比： ↓減少 →横ばい ↑増加

	疾病名	前週比	第11週	第10週
小児科 定点	RSウイルス感染症	↓	1 0.09	13 1.18
	咽頭結膜熱	↑	2 0.18	— —
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	57 5.18	53 4.82
	感染性胃腸炎	↓	80 7.27	110 10
	水痘	↑	6 0.55	2 0.18
	手足口病	→	2 0.18	2 0.18
	伝染性紅斑	↓	— —	1 0.09
	突発性発疹	↑	5 0.45	1 0.09
	ヘルパンギーナ	→	— —	— —

	疾病名	前週比	第11週	第10週
急性呼吸器感染症	インフルエンザ	↓	247 12.35	262 13.1
	新型コロナウイルス感染症	↓	59 2.95	63 3.15
	急性呼吸器感染症(ARI)※	↓	1884 94.2	1887 94.35
眼科	急性出血性結膜炎	→	— —	— —
	流行性角結膜炎	→	1 0.2	1 0.2

※急性呼吸器感染症（ARI）  
咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

### 【松戸保健所管内居住結核新登録患者数】

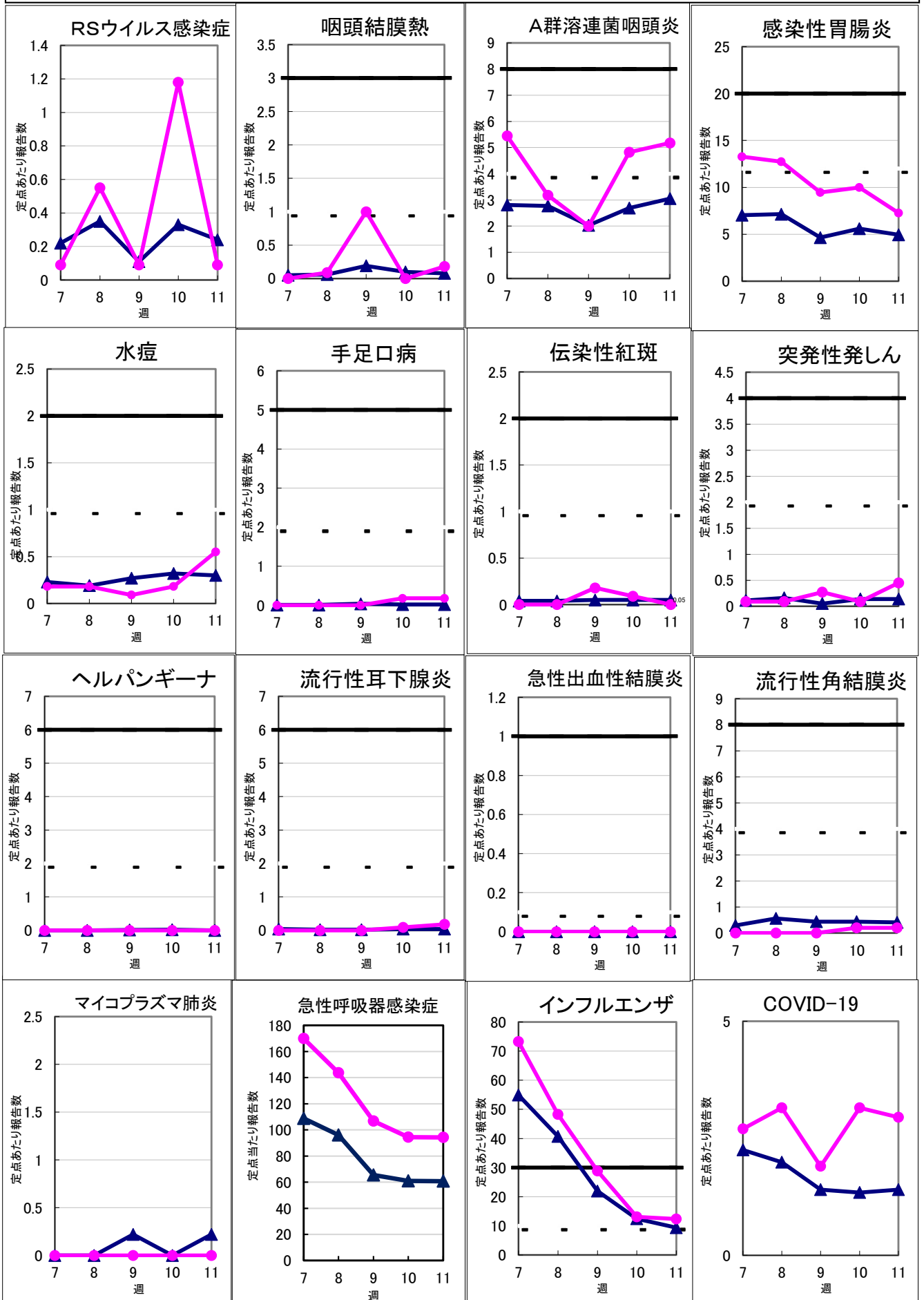
結核種別	患者数
活動性結核	—
喀痰塗抹陽性	0
その他の結核菌陽性	2
菌陰性その他	0
活動性肺外結核	0
無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）	3

### 【集団感染発生状況】

疾患名	報告数
インフルエンザB型	保育施設 9
新型コロナウイルス感染症	高齢者施設 2

# 【修正版】松戸保健所管内の感染症発生動向（直近5週）

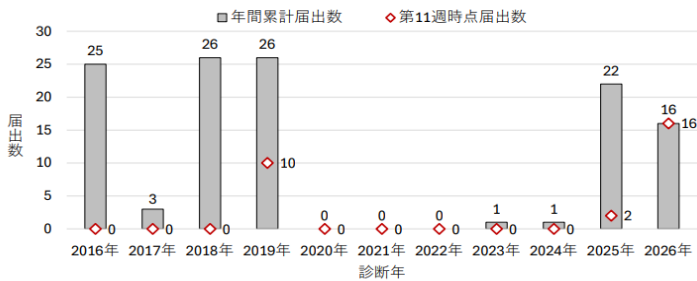
● 松戸保健所管内 ▲ 千葉県全体 — 警報基準値 - - - 終息基準値



## 1. 麻しん(はしか)について

〈出典〉(1) 図1: 2016年から2026年の県内の麻しんの診断年別届出数

(2026年第11週時点、120例)



2026年第11週に千葉県内医療機関から8例の麻しん発生届出があり、本年の累計は第11週時点では2016年以降で最多となる16例となりました(図1)。

全国では、第10週に東京都で9例、神奈川県で4例、愛知県で2例、長野県及び鹿児島県で各1例の計17例の届出があり、累計100例となりました。1)

世界では、2026年1月には7,834例の報告があり、東南アジア及び東アジアでは、ラオス及び中国において100例以上報告されています。1)

国内外で届出数が増加しており、引き続き発生動向に注意が必要です。1)

麻しんは感染力が非常に強く、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。免疫を有していない人が感染すると、ほぼ100%発症するとされています。

### 🌟 麻しん(はしか)の予防方法 🌟

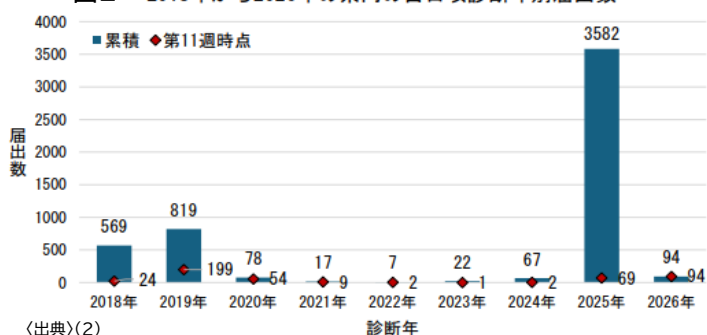
予防接種が最も有効です。

母子手帳などで予防接種歴を確認しましょう。

定期接種を2回受けていない方や接種歴が不明な方は、かかりつけ医に相談して接種を検討してください。

## 2. 百日咳について

図2 2018年から2026年の県内の百日咳診断年別届出数



千葉県では2025年の累計百日咳届出数は全数把握対象疾患に変更となった2018年以降で最多です(図2)。

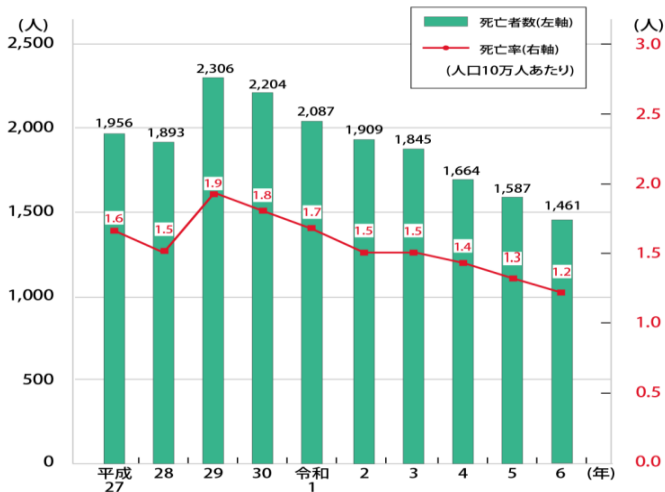
2026年第11週に千葉県内医療機関から5例の百日咳発生届出があり、2026年の累計は94例となりました(図2)。

全国では、第10週に100例の届出があり、2026年の累計は1,838例となりました。2)

全国的に届出数が増加していますので、引き続き発生動向に注意が必要です。

## 3. 結核について

図3 我が国の結核による死亡者・死亡率の推移



結核は、昭和20年代までは国民病として恐れられていましたが、現在ではBCGワクチン(結核を予防するワクチン)接種の普及、健康診断の実施や抗結核薬の開発等により減少しました。しかし、結核は今でも年間1万人以上の新しい患者が発生し3)、約1400人以上が命を落としている日本の主要な感染症です(図3)。

結核の初期症状は風邪の症状と似ており、発病に気が付かないこともあります。結核を発症しても、早期に発見できれば重症化を防げることや感染拡大防止にもつながります。

🌟 咳や痰が2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、できるだけ早めに医療機関を受診しましょう。

資料: 厚生労働省「2024年 結核登録者情報調査年報集計結果」から政府広報室作成 〈出典〉(4)

〈出典〉

1)千葉県感染症情報センターホームページ  
週報 2026年第11週(2026年3月9日から2026年3月15日)  
[wr2611.pdf](#)

2)千葉県感染症情報センターホームページ  
千葉県の百日咳発生状況(2026年第11週)  
[202611pertussis.pdf](#)

3)厚生労働省ホームページ

[結核 | 厚生労働省](#)

4)政府広報オンラインホームページ

[「結核」に注意! 古くて新しい感染症、日本では毎年 約10,000人が新たに発症! | 政府広報オンライン](#)